

**フランスはハナモチならん、イギリスはイケすかん・・・でも一目置くところはある**

10年ほど前、欧州の原子力利用に関する視察ツアーに参加したときの経験。

フランス国内で、労働者のストライキの現場に遭遇した。燃料価格高騰に反対するストで、バスやトラックやタクシーの運転手、農民（トラクターで燃料を使う）などが、全国各地で道路封鎖をしたり、仕事を休んだりしていた。その徹底ぶりはハンパなく、幹線道路に大型バスやトラックでバリケードをつくり、さらに、その隙間にトラクターが頭を突っ込んで、バイク1台も通さない、という構え。こちらは、ドイツで借り上げたバスに、ドイツ人運転手と日本人30人程度の乗客。なんとか通してほしいと交渉したが、聞き入れられない。しかたなく、最寄りの鉄道駅まで引き返し、列車でパリまで行かざるを得なかった。

翌日、ホテルでテレビニュースを見ていたら、どうも政府が折れて、なんとか収拾がついたとのことだった。ストの威力を実感した。やっぱりバスチューユ牢獄をぶっ壊した人たちの子孫は筋金入りだなーと痛感した。・・・個人的には、サルコジ大統領などなんとなくハナモチならんと思うのだが、フランスという国と国民には、一目置くところはある。

イギリスには行ったことがない。ブラウン首相がどんな人か、全然分からない。

イギリスも、どちらかというといけすかん、と感じる国だが、新しい政治の仕組みや社会制度など、どんどん創り出すところはすごい。やはり一目置くものがある。

結構好きな国はイタリアで、政治も経済もさほど立派とは思えないが、ジローラモさんのような人ばかりがいるような気がして、なんとなくニクメない国だ。随分昔の選挙で、チッチョリーナというポルノ女優が確か国会議員に当選してしまったことがあったが、あんなことは日本ではとても真似できそうにない。彼女は、ほとんど裸で選挙演説をしていましたから。

さて、船頭さんナビではあまり政治ネタは書かないことにしているが、今度の衆院選について少し・・・。自民党にはかなり厳しい結果になりそうだ。もしかしたら自民党はミニ政党になってしまうかもしれない。一方、民主党が勝ったとしても、実力は未知数だ。

解散前の政局、自民党のドタバタをさして、劇場型政治の終焉という見方があるようだが、政治の劇場性は今、最悪の状態に達しているような気がする。今度の衆院選を、勝敗が既に分かっているプロ野球の試合結果のハイライトを夜11時のスポーツニュースで見ると感じるような感覚で捉えている人が増えてきた、ように感じる。解散と同時にもう幕が下りたような感じ。こんな雰囲気でも政権交代があっても、われわれが自力でなし得た結果だとの実感は持てないだろうから、それで後々大丈夫だろうか心配になる。・・・フランスのストを思い出す。

今度の選挙で勝った党には、負けたよりも苦しい道が待っているはずだ。国民にとって厳しい政策も実行しなければならぬからだ。で、それができるかどうか、世の中が変わるかどうかは、結局のところ、われわれの覚悟次第。・・・各党のマニフェストが気になる。

衆院が解散した今日、多くの人の最大の関心事は、実は、日食が起きる明朝の天気だ。日食を生で見るのは、人生観が変わるくらいの体験らしい。雨天となり、夜のテレビで、観測飛行機から撮影した日食の映像を見ても実感は持てないだろう。日食と選挙は全く無関係だけど、9割部分日食でもいいから生で見られれば、選挙後の日本も何だかイケそうな気がする～。